

◆埼玉県立草加西高等学校

・創部から

本校弓道部は昭和六十一年に発足した。新入部員は女子だけでも六十名を越え、顧問の竹内保一先生は環境を整えるために奔走した。敷地内のわずかなスペースを見つけ巻藁を設置し、八月に秩父高校で合宿を行い、昇段試験では多くの生徒に初段を取得させた。夏休みが空けると熱意のある部員達は道場がほしいと校長に直談判をするほど校内での的前練習を渴望し、なんとか生徒の思いを実現させよと竹内先生はどこからか土を集めてきて安土を作り、防矢ネットを手に入れ、極めつけは業務さんをお願いして水道まで引いてしまった。



当時の道場(10周年記念誌より)

今も昔も変わらず厳しくすると辞める生徒が出るもので、十一月に朝練習を始めた頃、部員は二十名程まで減ってしまった。しかし人数に反比例し

どんだん選手は育っていった。熱意ある部員は台風が来ても大雪が降っても射場にシートを敷いて毎日練習を重ね、冬でも気合の半そで練習、日に百射の矢数をかけた。三月には早くも地区大会で上位入賞を果たしたが、このままでは勝てないと生徒には檄を飛ばし続け、強豪の川越農業・岩槻商業に練習試合を申し込むなど、どんどん新しいことに挑戦していった。その努力が実を結び二年目の秋の県選手権で第三位、三年目には団体として本校初の大東大会出場を果たした。生徒の熱意が顧問を動かし、また顧問もそれに応えるという素晴らしい師弟関係がそこにはあった。

・新道場と新しい弓道部へ

転機は平成十六年に友井誠先生(現鳩ヶ谷高校)、平成十七年に吉屋徹先生(現越ヶ谷高校)が着任された時である。専門知識を持つお二方は、当時週三回の練習だった部活をもっと良い環境で真剣にやらせてあげたいと新道場建設のために尽力された。当時は学校全体が部活を頑張る雰囲気は希薄であり、部活から学校を良くしていくという校長の方針であったことや校舎内に特別支援学校が併設される予定であったことなど色々な要因が追い風となり、平成十九年度に早くも実現した。それまでは風雨が吹き込み、顧問は傘を差しながらの練習であったとのことで、何不自由なく練習できる道場が完成したときの部員の喜びは一人であつただろう。

展していることが感じられた。

時代はさまざまであるが草加西高校には熱い思いを持った顧問がその時代に出来る最大の環境作りを行い、後世に色々なものを遺してくれた。私は平成二十五年度から草加西高校弓道部に携わっているが、歴代の顧問・部員が作り上げてきた伝統を受け継ぎ、現部員も日々自分に厳しく練習に励んでいる。近年では思いが成就し、平成二十七年東日本大会で優勝、平成二十八年東大会で第三位、平成二十九年度のインターハイで第七位入賞と上位大会で結果を残すことができた。今後も歴代の方々への感謝の気持ちをお忘れず、謙虚に日々の稽古に励んで行きたい。(現顧問 蓮見男)

周年誌によるとその後は専門的な指導のできる顧問の異動や部員数の減少などの悩みはあつたが、どの年代も真面目に弓道に向き合っていた様子が読み取れる。この期間は草加市弓道連盟にご指導をお願いし、段位の取得を目指し弓道が好きな生徒が集まり、伝統の灯を絶やさず守り続けた。

まだ当時は部員数が少なく、三年中でも十名前後の時期が続いたが長期休業中是一日練習を行うなど熱心に活動した。その甲斐あつて平成二十二年の県総体男子団体四位を皮切りに、女子個人で県入賞、関東個人には毎年出場できるようになった。並行して学校自体も部活を頑張る真面目な生徒が増え、進路実績も上がり年々発



H29宮城インターハイ団体出場